令和元年度　第２回会員研修会

『研究，はじめの一歩』

令和元年１２月１７日（火）午後３時～５時

千葉大学　教育学部　教授　野村　純　氏

「『研究』と言われると肩に力が入ってしまうかもしれませんが，力を入れすぎなくて大丈夫です。」「日々の業務の中で考えていることを仲間と共有していくことが，研究の一番大切なポイントです。」と，にこやかに話し始めてくださった野村先生。今回の講演では，研究の進め方について，たくさんのお話を聞かせていただきました。

１　研究とは？　～研究とはコミュニケーションである～

【実施期間内に達成可能な「量と質」を考える】

忙しい執務の合間に研究をしているため，限られた時間・期間にできるものにする。できることには限りがあるため，背伸びをせずに取り組む。

【テーマを考える】

自分が執務において興味をもっていることや疑問に思っていることが研究テーマになる。仕事をしていて気になっていることを書き出し，常にメモをとる習慣をつける。言葉にしてみると考えが明確になる。研究テーマは小さく固有名詞で表せる具体的なものを選ぶと，脇道に逸れにくくなる。

【グループ研究】

興味の共有から出発し，どこに焦点を絞るかを話し合う。普段使っている言葉であっても，必ず言葉の意味を共有し，メンバーそれぞれの差異を無くすことが必要である。また，テーマ設定の理由や調査の目的をグループ内で継承できるようにしておく。

【テーマに対する答え＝仮説をもつ】

自分の予想した答えが仮説であり，それが正しいか正しくないかを調べることが研究であるため，仮説無しに研究を進めることはできない。

２　計画と実施　～どうやって答えを証明するか～

【「ストーリー（道筋）」と「どのようなデータが必要か」を考える】

テーマを決めたら予想する結論を考え，その結論からテーマにたどり着くように逆算して，必要なものを考える。この必要な「もの」がデータで，このデータを集める手段がアンケート調査や実験などである。アンケート調査は「自分はこう思っているけれどみんなはどうか？」を調べるために行うもので，結論なしに行うことはできない。

アンケート調査は，アンケートに関する書籍などで勉強してから作り，実施する。

どのようなデータを並べたら分かりやすくなるのかをシンプルに考える。どのようなデータが必要であるか悩む場合は，自分たちが考えたことを証明できると考えられる架空のグラフや表を書くことで，必要なデータが見えてくる。先行研究の調査を参考にしてもよい。

３　まとめと発表　～結果を読もう～

【結果を分析する】

集まったデータを見て，何が分かったのかをニュートラルな立場で考える。データを見て事実と意見を峻別し，何が言えるのかを考え直す。流れの中で使わないデータもある。調査・実験した順番にこだわらず，伝わりやすいようにデータを並び替えてもよい。大切なことは論理がぶれないように前後のつながりを意識して，ストーリーの目的から結論に至る道筋が通っていることである。

【考察する】

何が分かったのかを分かりやすく伝える。分かったかどうか確証がないことは伝えない。

【発表する】

みんなに伝えて初めて研究と言える。外部の発表にも挑戦してほしい。取り組んだ研究が刺激になり，養護教諭の活動が活発化することにつながる。

研究はコミュニケーションである。皆と分かち合うことで，養護教諭みんなの財産にしていくことができる。